



Bognar · Kitagaki · Suzuki · Shibuya

Kagami · Osumi · Higuchi · Oga · Inaba · Ishigami

カリタス女子短期大学 教員リスト (2004 年度)

	教員名	専門分野
教授	稲葉延子	20 世紀思想 (シメヌ・ウエイユ)
	樋口仁枝	仏語学・ジヨルジュ・サンド
助教授	エリック・ホクナール	音声学 (鼻母音)
	北垣 潔	18 世紀文学 (ディドロ)
講師	石井啓子	17 世紀フランス文学 (ラ・フォンテーヌ)
	石上亜紀子	20 世紀思想 (ジヨルジュ・バタイユ)
	大賀正喜	翻訳法 (日仏・仏日)
	大隅郁子	フランス現代文学 (アンリ・ホースコ)
	各務奈緒子	20 世紀フランス文学 (アルベール・カミュ)
	渋谷 豊	19 世紀詩 (ランボウ)
	鈴木隆芳	言語学 (ソシュール)
	アキヤット=マリ・ベルテル	国際文化交流
	アルメル・ヒルシャワー	哲学 / 教育学
	ダニエル・ジャフレジック	教育学 / 言語学
フランソワ・リエナール	薬学 / 環境学 / コミュニケーション	

カリタス女子短期大学卒業生の活躍

フランス語圏で日本語講師として活躍 ...Paris

後藤由美

カリタス女子短期大学 仏語科 13 期卒

EHES(社会科学高等研究院)言語学博士課程に在籍中

早いもので短大卒業から 7 年の月日が流れてしまいましたが、私は仕事との両立という形で、しかも、場所もパリへと変わりましたが、相変わらず学生を続けております。

短大卒業後は、パリ第一 大学で言語学及び仏語教授法を専攻し、学士・修士課程を修了しました。現在は EHES に在籍し、日仏比較言語学を専門分野として研究を続けています。博士課程では、『日本語と仏語にお

創刊準備号

カリタス女子短期大学 言語文化学科

仏語・仏語圏文化専攻発行の
情報誌の名前を募集しています。

お気軽にご応募下さい。

inaba@caritas.ac.jp

kitagaki@caritas.ac.jp

情報誌に掲載して欲しい記事、内容についての
アイデア、感想等もお聞かせ下さい。

Numéro.0

創刊準備号発刊のことは

言語文化学科長 稲葉延子

このたびカリタス女子短期大学では、フランス語とフランス語圏文化の情報誌を発行することといたしました。本学の教員と同窓生が書き手の中心となり、フランコフィルのための紙面となるように、学内外、国内外に向けて発信するという壮大な目標をたてました。日仏二言語で書かれた記事は、読み手の皆さまの御意見を伺いながら発展させていこうと思います。年に 3 回程度の季刊としたいと存じますが、これも皆さまのお声次第でしょうか。

さて、カリタス学園のフランス語教育の歴史は、すでに 40 年あまり、短期大学で仏語科が設置されてからも 20 年が経過します。これまでに短大の仏語科、仏語・仏語圏文化専攻を卒業された方は 600 人以上にもなりました。多くの卒業生が、国内はもとより、フランス語圏の都市で、学業を続け、仕事をしながら、生活の基盤を置いています。時折もたらされるパリ、リヨン、ディジョン、トゥール、アンジェ、トゥールーズ、ストラスブール、ブリュッセル、ケベックといった都市からの、さまざまなカリタシエンヌの状況が、メールや手紙、時には一時帰国したご本人の口から、私たち教員に語られることがあり、常々これらの貴重な体験を、一教員と教え子の間だけにとどめるには、「もったいない」と感じてきました。ひとりの体験や情報を分かち合うことで、久しくパリの地を踏んでいない方も、またいつかはフランスへと考えている方も、夢が広がることでしょう。

この準備号では、期せずしてフランスの日本語教育の二大拠点 (パリ・トゥールーズ) で、活躍しているお二人の卒業生の報告を載せることができました。

パリのパサージュに入ると、劇場と花屋とサロン・ド・テが眼にとまります。私たちは、「人生」と言うパサージュを散歩しながら、途中で劇場に立ち寄り、芝居を見たり、時には舞台上に立ったりしながら、ちょっとひと休み、お茶をいただくことがあります。次のパサージュをくぐり抜ける前の英気を養うためでしょう。人と出会えるのもこのサロンです。

この情報誌がフランコフィルの皆様のサロンとなることを祈っております。

ける複数・単数概念について-人称代名詞とカテゴリー』というタイトルで論文を書いています。フランス語と日本語を比較するという事は、外国語であるフランス語のフィルターを通して母語である日本語を研究することでもあり、なんとも刺激的な作業です。又、共同研究で日本語数助詞辞書を出版予定です。

学生業の他には、フランス語を学び始めた頃からの夢でもあった日仏通訳、翻訳の仕事をしつづけています。最近ではホテルサイトの翻訳、映画の日本語台詞指導といった面白い仕事もしました。又、パリ市役所日本語科専任講師、企業派遣教師(ルイヴィトン、カルチェ等)として日本語を教えています。まさか自分が先生になるなんて思ってもみなかった私には、これまた勉強の毎日です。パリでルノーの生徒さん達と経済新聞を読むために必死になってビジネス用語を勉強する日がくるなんて、誰が想像したでしょうか？

そんな私の原点は勿論カリタスで学んだフランス語にあるわけですが、語学だけではなく、異文化や自分と違う人に対する好奇心、そして、そういったものに、色眼鏡を掛けずに接触し、自分の眼鏡で判断をするといった姿勢も、カリタスで養われた私の「見えない」財産の一つです。私の好きな言葉に「Soyez le sel de la terre (地の塩となれ)」という聖書の言葉があります。カリタスの先生方、友人をはじめ、卒業後も私は沢山の素晴らしい人と出会い、励まされ、助けられてきました。そうしたお世話になった方々に感謝する意味も込めて、私自身が、いつも誰かにとって役に立つ、地の塩でありたいと願うことが私のパワーの源なのです。これからもこの気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

(カリタス学園同窓会新聞)

シャリテ 28 号 転載

一部加筆

カリタス女子短期大学卒業生の活躍

フランス語圏で日本語講師として活躍...Toulouse

小山まい

カリタス女子短期大学仏語科 11 期卒

トゥールーズ・ル・ミラーユ大学博士課程在籍中

トゥールーズ・ル・ミラーユ大学日本語学科講師

フランス地方都市の日本語事情

フランス南西部の都市トゥールーズで日本語を教えはじめて 2 年になる。トゥールーズは、フランス第 4 の都市で、ヨーロッパの航空産業の一大拠点でもあるが、日本では歴史や地理の教科書ではまずお目にかからないので知名度は意外に低い。フランス人の間でも、トゥールーズがパリについて 2 番目に多い数の学生を擁し

ていることはあまり知られていない。

私が勤務するトゥールーズ・ル・ミラーユ大学(トゥールーズ第 4 大学)は文科系の学部が集まる大学で、約 2 万 3000 人の学生がいる。このなかの外国語学部は日本語学科があり、1 年生から 4 年生まで 300 人弱の学生が学んでいる。1 年生は 150 人くらいの登録者がいるが、その後学年ごとに半分ずつ減っていくので、4 年生まで進むのは 15 人と少数だ。とはいえ、人数がいちじるしく減るのは必ずしも日本語が難しい外国語であるかどうかの問題とは関わりがない。現行のフランスの大学教育システムでは日本の大学のように 4 年で学士というひとつの資格を与えるのではなく、2 年修了で DEUG、3 年修了で Licence という資格を授与するので、2 年や 3 年修了の時点で専門を変えたり、就職をしたりするケースが多いからだ。



ル・ミラーユ大学の日本語学科の学生数は驚いたことにドイツ語学科より多い。外国語学部では唯一学生数が伸びている。日本語

ブームである。フランスでは就職にはまず役に立たない日本語がなぜ人気があるのか。学生に日本語を選択した動機を聞いてみると、この日本語ブームは、Manga ブームに負うところが大きい。日本の漫画やアニメ映画の最新版を読んだり見たりしたい、だったら日本語を勉強してしまおうと思ったという学生は珍しくない。とはいえ、漫画に精通していても、日本についてはほとんど何も知らない新入生は多い。日本や広い意味での日本文化に学科の大多数の学生が興味を持ち始めるのは、実は入学後にすぎない。しかし日本語学習熱は日本の社会、文化への興味へ間違いなく発展する。2 年生以上になると学生は日本人留学生と積極的に交流し、自主的に書道、料理教室、ビデオ鑑賞会などを企画している。20 人の交換留学の枠は毎年瞬く間に埋まる。留学から戻った学生は、きまってまたすぐに日本へ行きたいと目を輝かせる。フランス人学生と日本人学生が昼休みに仲良く「お花見」の会を楽しんでいる姿を見ると、両国の文化交流が少しずつ相互的なものへ向かう兆しを感じる。



フレンチポップス

un chanteur exceptionnel

Eric BOGNAR

Quand on questionne les Japonais sur les chanteurs français qu'ils connaissent, chacun répond selon son âge: certains évoqueront les grands chanteurs de l'après-guerre (Edith Piaf, Yves Montand), d'autres les idoles des années soixante (Adamo, Sylvie Vartan), d'autres enfin citeront quelques nouveaux venus dont les chansons s'entendent dans des publicités télévisées japonaises (Alizée, Lorie). Bien peu mentionneront Henri SALVADOR, pourtant apprécié en France par toutes les générations.

Né en 1917 de parents guadeloupéens, à quinze ans Henri SALVADOR jouait déjà de la guitare dans les cabarets de Montparnasse: il est resté un remarquable guitariste de jazz, mais c'est surtout un auteur-compositeur-interprète et un artiste complet, tour à tour chanteur, musicien et clown. Il excelle dans tous les domaines imaginables: les ballades comme *Syracuse*, qui sera reprise par Yves Montand, les chansons pour enfants, comme *Le Loup, la Biche et le Chevalier*, les parodies comme *Rock and rollmops*, les chansons comiques telles que *Zorro est arrivé*. Il a collaboré avec Boris Vian et a écrit avec lui plus de 400 chansons, dont l'inénarrable *Blues du dentiste*.

Mais ce qui fait que cet artiste est peut-être le plus exceptionnel de tous les chanteurs français, c'est qu'aujourd'hui, à presque 90 ans, il chante encore de sa voix si douce et si puissante à la fois. Il donne encore des concerts et participe à des enregistrements avec de nombreux jeunes artistes qui le vénèrent. D'ailleurs, c'est sa collaboration avec Lisa Ono dans son CD intitulé *Dans mon île* et sous-titré *La musique française rencontre la Bossa Nova (2003)* qui commence à faire connaître ce grand artiste à beaucoup de Japonais. La chanson titre du CD est une admirable ballade composée par Henri SALVADOR en 1957, et aujourd'hui chanté en duo par "Lisa" et son ami "Henri". Voici ce qu'elle écrit: 86才でありながら、まだまだその美声で私たちを魅了してくれるアンリさんの 1957年に発売されたシングル曲です。Eh oui, à 86 ans, une voix encore et toujours enchanteresse...

A table ! お菓子のレシピ

recette des gâteaux français

Hitoe HIGUCHI

6月にはフランス中部地方には黒さくらんぼがたくさん実ります。さくらんぼを使ったおかしや保存食にはいろいろありますが、ここではベリー地方に伝わるさくらんぼのクラフティの作り方をご紹介しましょう。

まずお皿のように大きくて浅い器にバターをぬります。柄をのぞいたさくらんぼを2段重ねで並べます。小麦粉カップ1, プランデー小さじ1, 卵1, 塩少々、卵大のバターに水を適量加えて、木じゃくしで5分かきまぜてなめらかなクレープ生地を作ります。これを器のさくらんぼの上に流します。このとき生地をいれすぎないように注意します。(入れすぎると重くなり味が悪くなります。) 熱したオーブンに入れて1時間焼きます。焼けたら器から出し、さとうをまぶします。そのまま数時間冷やしてできあがり。

これはジョルジュ・サンドの孫娘、オーロール・サンドのレ



シピですが、この地方に伝わるとても素朴な作り方です。クラフティのことをこの地方ではガリフティと言っていました。

た。サンドもこの田舎風のシンプルなさくらんぼのタルトがとても好きだったようです。

オーロールは「あついままではおいしくないし、消化にもよくない。夜食べるなら朝、翌朝食べるなら夜作っておくこと。日持ちは2日」と注意をつけ加えています。

Information

進学説明会

9月18日(土)
13:30~16:00

あざみ祭

10月24日(土)
13:30~16:00

キャンパス見学会

13:30~16:00
10月9日(土) ・ 11月27日(土)
12月18日(土) ・ 2月12日(土)
2月26日(土)



カリタス女子短期大学市民講座 (青葉区民大学リレー講座)

■ ■ テーマ: 「パリ」 -その多面性を読み解く- ■ ■

9月25日(土)~12月18日(土) 全10回 14:00~16:00

プログラム

日時	講師	題目
■ ■ シリーズ1:今日のパリ模様		
9月25日(土)	稲葉延子(本学教授)	パリ事始 ...パサーージュの中へ...
10月2日(土)	大賀正喜(本学講師・元立教大学教授)	パリ発のメディア
10月9日(土)	エリック・ボグナール(本学助教授)	Les chanteurs de Paris(1930 - 1970) (『パリを歌った歌手たち 1930 - 1970』)
■ ■ シリーズ2:作家の見たパリ		
10月30日(土)	樋口仁枝(本学教授)	私のパリ、サンドのパリ
11月13日(土)	石上垂紀子(本学講師)	パリのアバンギャルドたち
11月20日(土)	各務奈緒子(本学講師)	カミュ ...アルジェからパリへ...
■ ■ シリーズ3:異邦の目が見たパリ		
11月27日(土)	大隅郁子(本学講師)	パリとプロヴァンス
12月4日(土)	北垣 潔(本学助教授)	人々はパリをめざす - 18世紀ヨーロッパの首都パリ -
12月11日(土)	渋谷 豊(本学講師)	パリの日本人 松尾邦之助と金子光晴を中心に
■ ■ パリを歌う~コンサート~		
12月18日(土)	鎌田直純 (和歌山大学教育学部助教授・本学講師) 上山美恵子 (声楽家 二期会会員・東京室内歌劇場会員) 稲葉延子(本学教授)	パリ・19世紀から20世紀へ、都市の歌

申込方法 : 受講希望の方は、葉書又は FAX にて、住所・氏名(ふりがな)・性別・年齢・電話番号・FAX 番号 (FAX のある方のみ)をご記入の上、**9月21日(火)迄**に下記宛にお申込み下さい。

(折り返し、お申込み受付通知を、葉書又は FAX でお送り致します。)

受講料 : 8,000 円(一旦納入された受講料は、原則としてお返しできません。予めご了承下さい。)

振込先 : 受付通知到着後、**9月24日(金)迄**に下記の振込先までお振込み下さいますようお願い致します。(恐れ入りますが、振込手数料は、各自ご負担下さい。)

東京三菱銀行	登戸支店	普通預金
口座番号: 4706738		口座名義: 学校法人カリタス学園

又、金融機関備え付けの用紙に払込人氏名をご記入される際、あるいは、ATM で払込人氏名をご入力される際には、ご自分のお名前の前に、アルファベットの「S」をつけてお振込み手続きくださいますようお願い致します。

(例: 山田太郎さんの場合には「S 山田太郎」)

尚、金融機関の発行する受領証が、受講許可の確認となりますので、大切に保管して受講初日にご持参下さい。

カリタス女子短期大学 言語文化学科 仏語・仏語圏文化専攻
〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野 2-29-1
TEL: 045-901-5133 FAX: 045-901-5066
URL: <http://www.caritas.ac.jp/france/>
MAIL: inaba@caritas.ac.jp kitagaki@caritas.ac.jp

フランコフィルのための情報誌 創刊準備号

2004.8.25 発行

発行人: 北垣 潔(仏語・仏語圏文化専攻 主任)

編集人: 稲葉延子

協力: 岩佐智奈美 鎌倉山「ル・コシヨ」